令和５年 12 月６日発行

NPO 法人　京都観光文化を考える会

都草だより

第79号
発行人：小松香織
編集人：相場まり子
発行所：京都市上京区
下立売通新町西入
京都府庁旧本館2階
電　話：075-451-8146

■ 京都検定対策で新たに直前問題演習会を実施

京都会場 平安女学院大学

直前問題演習会 京都会場

直前問題演習会 東京会場

12 月 10 日（日）に行われる第 23 回京都観光文化検定試験（京都商工会議所主催）を控え、10 月 8 日（日）、都草第 17 回京都通模擬試験を実施しました。今年は試験会場を平安女学院大学に変更、100 人が受験しました。自宅受験の 113 人には、模擬試験問題、解答と解説の講習資料を郵送しました。

さらに、新しい企画として、京都検定１級合格対策直前問題演習会を 11 月 19 日(日)に実施しました。1 級合格を目指す方々に、多くの問題(計 260 問)を解いていただき、学習の最終確認をしていただくことがねらいです。模擬試験は京都のみの開催ですが、演習会は京都（平安女学院大学）と共に東京（お茶の水女子大学）でも同日に開催、京都で 100 人、東京で 32 人が受講しました。東京でもこの演習会を開催できたことをうれしく思います。自宅受講は 68 人でした。

直前問題演習会は初めて試みですので、問題の内容や量、解答解説等について不安もありました。受講者のアンケートを拝見したところ、多くの方々からよい評価をいただき少し安心しました。「とても中身の濃い演習会でした」、「このような主旨の演習会はとてもありがたいです」等のコメントをうれしく読みました。もちろん、実際に実施してみて分かった課題もたくさんありますので、よりよい演習会になるように今後手直しをしていくつもりです。（理事　岩崎勉、伊藤一彦）

■ 2023 秋（観芸祭）府庁案内ボランティアに参加して

快晴の観光日和に初めての案内ボランティアなので「難しい質問はされないように！」と心の中で祈りながら臨みました。願いが通じたのでしょうか、「見学よろしいですか・・・」と、お一人様、ご夫婦で、友人同士や仕事仲間など、次々と遠慮気味に入室して来られました。

私は初心者で、専門的な説明は出来ません。会話を楽しむ事を心掛けて、案内を始めました。少し間を置いてから「こちらへは？」とお聞きします。すると、「天気が良いので・・・」とか「１９０４カフェの待ち時間の合間に・・・」とか「出張のついでに・・・」とか、笑顔でお返事を下さいました。

また、一呼吸してから「雰囲気など如何ですか？」と尋ねると、「昔、ここで仕事してて、あの頃はなぁ・・・」と、ご一緒の奥様に語りかけたり、「こんな暖炉、以前住んでた家にあったわ。懐かしい・・・」とか「そうそう！この知事さんいたはった、思い出したわ」と、皆さん喜んで「あの頃」にタイムスリップしておられました。レトロで豪華な空間に、皆さん堪能してお帰りになられました。沢山のお礼のお言葉を頂戴して、嬉しかったことを覚えております。今回は参加出来て、有意義な時間を過ごせたことに、本当に感謝申し上げます。最後に、立ちっぱなしで腰が少し痛かったことも申し添えておきます。（会員　木下 晃）

■ 第 38 回文化交流部会「小鼓（こつづみ）の魅力を面白くわかりやすく」

９月 23 日ひと・まち交流館に集まったのは 19 名の会員。司会者より「曽和鼓堂」先生のご紹介があり、先ずは小鼓の基礎知識からうかがいました。素材は馬の皮、桜の木、麻ひもからなり、湿り気を好む楽器なので雨の日は「小鼓日和」といわれます。また、重力に逆らい打ち鳴らす打楽器であり、５種類の音の打ち分けが出来ることなどを教えていただきました。その後、曽和家に 150 年位前から大切に受け継がれてきた小鼓で短い演奏をしていただきました。

小鼓の豆知識として、①鼓の音や花の形状からタンポポを「鼓草」という、②能の演技を支える小鼓は指揮者がいないことから演奏は「イキ」を合わせ掛け声でコンタクトをとる、③リハーサルはほぼ無く全て暗譜で演奏するとうかがいました。持参された鼓胴（漆塗りで秋草や虫が描かれていて中は空洞）を全員で触らせていただきました。

次は情景を設定していただき、目を閉じて演奏を聴きました。能は想像する芸能で「離見の見」が大事であるとのこと。休憩後は４名の会員が小鼓を打つ体験をしました。姿勢、持ち方、力まず指の腹で打つこと等ご指導を受け、良い音が出るまで挑戦。小鼓に触る際は貴金属類は一切駄目で、実際の舞台では眼鏡も駄目とうかがい驚きました。

最後に参加者の健康と幸せを祈って祝言曲「翁」を演奏していただきました。会員からの質問にも丁寧にお答えいただき、先生のユーモア溢れるお話と素敵な演奏に感動の 1 時間 20 分。古典芸能の舞台で使われる小鼓についての知識を深め、演奏を聴いて、触って、貴重な経験になりました。（会員　小松 孝代）

■ 美化活動（十輪寺）で声明と三弦を聞く

11 月６日（月）、西京区大原野の十輪寺で美化活動を行い、ご住職の計らいで清掃後に「声明と三絃を聞く会」を開いていただきました。この会は毎年 6 月に行われているものです。遠方で交通の便が悪いにもかかわらず 31 人の参加者がありました。

十輪寺は天台宗の寺院で山号は小塩山（おしおざん）、本尊は延命地蔵菩薩（等身大木造の坐像）で、平安時代初期の歌人で六歌仙の一人在原業平が、晩年この寺に隠棲したことから「なりひら寺」ともいわれています。中庭（三方普感の庭）の「なりひら桜」（樹齢 200 年の枝垂れ桜）でも知られています。また、業平が境内の裏山に塩焼きの風情を楽しんだとされる塩竈（しおがま）の旧跡があり、十輪寺周辺の地名が小塩（おしお）となった由来であるといわれています。

清掃作業では、禁足地である花山院家（藤原北家）のお墓とその周辺、参道の枯れ葉、枯れ木、白い椿などに絡まっている蔦、溝に堆積していた枯れ葉や土砂を除去しました。午後から雨の予報でしたが、降り出したのは作業が終わるころで助かりました。

清掃後に開かれた「声明と三絃を聞く会」では、御年 93 歳のご住職のざっくばらんな法話と声明、三絃を拝聴、とても楽しい時間を過ごすことができました。

ご住職に清掃について伺ったところ①掃除をするということは自分の心も掃除をする②ゴミを捨てるだけでなく「心の煩悩」をこころせよ③生きることを大事にする④日々新たに、明日に向かって掃除は大切な心を洗う⑤明日を生きる喜びと命の大切さ、家族の会話を大切にしなさい、とお話しくださいました。（会員　吉野 克行）